

2011.3.26

支援派遣チーム第1陣の全行程
被災状況の報告

災害対策本部

【日程】平成23年3月24日(木)15時協会事務局(品川)を出発
3月28日(月)19時協会事務局へ戻る

【派遣先】岩手県支部事務局、宮城県支部事務局

本館病院【岩手】、三陸病院【岩手】、宮古山口病院【岩手】、久慈亨和病院【岩手】
岩手県立久慈病院【岩手】、釜石厚生病院【岩手】、県立大船渡病院精神科【岩手】
希望ヶ丘病院【岩手】、赤坂病院【宮城】、恵愛病院【宮城】、三峰病院【宮城】
宮城県立精神医療センター【宮城】、南浜中央病院【宮城】、仙南中央病院【宮城】

【派遣職員および合流した理事、支部役員】

岩手県支部高橋理事、秋田県支部工藤理事、岩手県支部高橋支部長、尾形前支部長他、
宮城県支部森支部長、菅原事務局長他
派遣職員：早川専務理事、窪田常務理事

【行程メモ】

連絡を受けたメールをもとに作成（時系列）

3月24日 15時出発



18:16 那須高原 SA 首都高、東北自動車道に渋滞なし。スムーズに到着。50km速度規制あり。花巻宿泊

3月25日 9:08

本館病院で工藤理事と合流し、会員施設の状況や道路状況を確認しました。



岩手県支部事務局を經由して宮古市に入る予定です。

岩手県支部事務局へ（盛岡）その後、宮古地区へ

15:57 三陸病院



*注黒い部分は津波と無関係

施設、患者さん、職員に犠牲なし。家族に犠牲者がでた職員4名。

住宅被害の職員19名（全壊6名）入院通院患者の家族の犠牲を確認中。

帰る家と家族を失った患者へのケアが課題。避難所でのケアのお手伝いしたいが、情報や
関わり方のノウハウの訓練を受けたいとのこと。

三陸病院看護部長



宮古山口病院 白根ハマ看護部長

施設は、高台にあたり、施設、患者さん、職員に犠牲なし。

ご家族の安否と職員の住宅等の被害は、現在調査中であるが、津波による住まいの全壊やご家族が犠牲者になられたことはいくつか確認できている。

2日程前より電気が復旧した。2000年問題の年に全病室、トイレ等に懐中電灯を設置したことが役に立った。欲しいものは、燃料各種（ガソリン・灯油・重油・プロパンガス）と薬の安定供給。お風呂は重油でたいているため週1回の入浴としている。薬は、1週間の処方としている。食料も含め災害に備えていたが、想定をはるかに超える震災だった。食材は、入ってくるもので対応している。

避難所でのこころのケアも重要であるが、ケアをしているスタッフへのケアも重要と思う。泊まり込みで働いている職員もいる。人の支援(スタッフ派遣)については、オリエンテーション等の時間がおしい。OBや離職者であれば、受け入れたいと思う。



宮古山口病院経由、久慈地区へ

道中

宮古市田老地区の状況1



宮古市田老地区の状況 2



宮古市田老地区の状況 3



宮古市田老地区の状況 4



宮古市田老地区の状況 5



岩手県久慈市 久慈亨和病院 看護部長：佐々木 廣

施設は、海岸より距離があり、施設、患者さん、職員、職員のご家族に犠牲なし。患者さんのご家族や家屋の被害については、現在調査中である。看護職員で家屋の全壊2名、床下浸水1名と現在把握している。

望むことは、物流の安定供給（ガソリン等）、1週間先が読めない。ガソリンに関しては、職員が粘り強くガソリンスタンド等と交渉によって確保している。

厚労省の通知により、定床オーバーは、OKであるが、デイケアは×、地域の受け入れを考えれば緩和を希望する。



岩手県立久慈病院 外来スタッフ：小田早苗

1人会員、外来のみ。家屋の被害なし。

岩手医大から医師派遣で外来をまわしており、昨日から開業できた。患者さんの安否被害等、確認中。支援物資は、喜んで被災者の方に使わせていただくとのこと。



岩手県支部事務局に戻り、宿泊

3月26日 8:17 岩手県支部事務局を出発



支部事務局では、Webから情報収集や、資料のcopyもできました。

窪田さんのいびき以外は、快適に休めました。

岩手県南部の沿岸部に向けて出発します。

10:30 釜石厚生病院 総合病院 精神科 3 単位 200 床。会員数 15 名。

最上(もがみ)総看護長 75 歳 精神科歴 50 年と会員代表の小林京子様と面会する。
病院被害は、ボイラーとエレベーターでボイラーは復旧したが、エレベーターは、2ヶ月後。震災後、開放患者は、体育館で看ている。全員無事。ライフライン回復してきている。家屋を失った職員 23 名。身内も亡くなっている。看護師 1 名、未だ行方不明。マンションを施設が借りて対応している。(津波被害で家財道具なし)

患者さん家族と安否も含め連絡とれていない。家族宅の状況わからず、これから対応。また、外来に來られてない患者さんもおられると思うが、そこまで余裕がない。看護師の応援態勢については、関係性がないと患者さんが不安になるので……。

デイケアは、帰る前で病院に泊めて対応した。翌日スタッフ付き添いで帰宅させ、片付けを援助した。(5名ほどは、任意入院で対応した)

会員代表の小林京子さんも家は津波により全壊というより、何もないと話される。

13:00 県立大船渡病院精神科 総合病院 病床 100 床 会員数 3 名

会員代表：横澤清隆さんと面会

高台？山の中腹にあり、施設の被害がない。NTT 中継？が被害のため固定電話が現在も使用できない。重症度の高い患者さんは、内陸の施設に転院。他の県立病院からスタッフの応援もあり、交代で休めるようになってきた。

職員は、全員無事であるが、ご家族が被害に遭われている。家屋が流された職員は、病院全体で 25 名。精神科病棟の看護スタッフは、27 名中 4 名自宅を失った。(病院で寝泊まり)病院で、アパートを探している。

入院患者 60 名の内、20 名が家屋倒壊。宮城県光ヶ丘病院の患者さんを受け入れている。両親を無くし、家を失ったスタッフが、日常的に働いている。スタッフのメンタルサポートが課題。

14:30 希望ヶ丘病院(陸前高田)

看護部長：新沼明美様 会員代表：菅野朋子様 共に不在。

事務長：畠山政平様と面会。高台にあるので、施設の被害はなし。固定電話はまだ復旧していない。衛星電話を設置してもらい対応している。近隣の住民の方々が、避難して來られたので、避難所として解放。(ピーク時 300 名ほど) 下水の浄化槽がキャパをオーバーしてしまった。入浴の水をくみ上げ式を採用している。節水のため入浴を制限している。

給食の外注業者が被災し、パン等の支援を受けたが、偏った食事になっている。入院患者のご家族の安否や家屋の状況をケースワーカーが調査中。避難所から、奇声・徘徊・独語

等の症状が表面化した患者さんの対応しており、精神科93床満床。職員は、無事であったが、家族が亡くなった職員は20名ほど。40名ほど家を失い病院で寝泊まりしている。病院に寝泊まりしている職員も大勢おり、疲弊している。一時的にでも、看護職員の派遣があると非常に助かり、期待する。看護部長と相談の上、お返事頂ければ、可能な限り対応すると返答。

17:00 本館病院まで戻る。高橋理事の出迎えを受け、工藤理事と別れる。

一路、宮城県支部事務局へ。

19:30 宮城県支部事務局到着 森支部長・菅原事務局長より情報提供

1) 宮城県立精神医療センター(名取市) *津波の被害なし

職員は、無事であるが、家族を失い避難所生活の職員もいる。準夜引き続き深夜勤務で対応している。患者さんにお風呂の提供ができない理由は感染症↑ノロウイルス?

2) 南浜中央病院(名取市)

壊滅的な被害。病院機能崩壊。カルテ水没。患者さんに被害無いが全患者転院。目の前を職員が流されていくが、何もできなかった。全看護職員4月15日まで休職。再開のめどたっていない。岩沼市内に事務所を設置し、外来と訪問で対応か?

3) 光ヶ丘保養園(気仙沼市)

施設1階が浸水し、2階で看ている。

4) 三峰病院(気仙沼市)

高台にあるので、施設被害はないと思われるが、職員の家屋等被害予測される。

5) 赤坂病院(石巻市)

高台にあるので、施設被害はないと思われるが、職員の家屋等被害予測される。

6) 恵愛病院(石巻市)

壊滅的な被害。病院機能麻痺。24名の患者死亡。31名の患者引受先見つからない。

7) 仙南中央病院(柴田郡)

津波の被害はないが、建物が古く2棟倒壊の恐れのため使用不能。患者さんは、体育館で100名避難。全職員の把握ができていない。

*3月27日(日)は、宮城県支部の会員さん(小松宗夫様以前光ヶ丘に勤務、4月より南浜中央病院に就職予定)の案内で気仙沼市と石巻市の4施設訪問(3)~(7)する。時間があれば、訪問する計画。

【支部事務局業務等について】 *事務局員出勤できない。

1. 支部事務局の確保のため家賃の前納をして良いか?
2. 公共料金の支払い(ガス・下水道・電気・電話等) → 請求書を協会に送付
3. 入会の案内(協会への入金体制は可能か?)

4. 研修会の実施 → 支部役員等の生活が落ち着くまで開催しない方針。
*開催時の研修会の案内等の事務手続や講師、役員等の連絡調整を協会が担当？
5. 専門学会Ⅱ、こころの日、支部大会 → 専門学会Ⅱ開催地変更で調整中。
こころの日、支部大会等 4. と同様
6. 3.~5.に関して宮崎県支部会員及び会員施設に文書発送でお知らせ。
7. 支部看護研究学会、東北精神科看護学会 → 東北で協議する(地区支部長会議)
8. 支部支援、ボランティア活動について検討
→ 施設へのスタッフ派遣等、被災施設に確認する。
ご希望のボランティア活動への派遣も可能と考える。

3月27日(日)

8:00 宮城県支部事務局 出発

ガイドとして宮城県支部：小松宗夫様 先月まで光ヶ丘病院(気仙沼市)で勤務。今月から、南浜中央病院(支部長の施設)に勤務予定だった。

10:00 石巻市 赤坂病院到着 定床 111 床(患者数 108 名) 会員数 4 名。

看護部長：佐藤和彦と面会する。赤坂病院は、内陸に位置しているため津波の被害なし。病院被害としてエレベーターが動かなくなった程度。患者さんの被害もないが、ご家族と連絡がつかない。ご家族が亡くなり、家を失った患者さんは、多数いる。

職員は、全員無事。ご家族が亡くなり、家を失った方は、多数。親戚に身を寄せたり、病院で寝泊まりしている。看護スタッフの中で家を失った方は 10 名ほど、半壊等含めると↑。ライフラインについては、水道が本日復旧し、あとはガスの供給のみ。燃料業者が倒壊してしまったので入荷の予定がないが、備蓄が十分にある。

施設が民事再生法の手続きとなり、福岡県を本社とする施設なため、被災直後より福岡県より、多量の物資が届けられたおかげで医薬品、衛生材料の不足はない。食事は、外注で対応しており、回復してきた印象を持っている。

被災した職員も多く、疲れている。人的な支援については、受け入れの体制も必要なので、手伝いに入ってもらい余裕がない。今の形で立て直すとのこと。

*市内の恵愛病院は、患者さんの転院がまだ解決していない。先日、お見舞いに伺い、お話しする機会があった。当院で受け入れる余力はあるが、トップで交渉がないと前に進まない。

11:30 石巻市 恵愛病院 会員数 29 名 一壊滅的な被害(要支援)一

徳永院長代行と藤中好子看護部長と面会する。病院というより町が壊滅的な被害。道路わきは、ガレキの山と泥。周囲は、1階が水没する津波がおしよせた様子。

患者さん24名が犠牲。職員も2名が犠牲になり、1名行方不明。多くの職員は、避難所生活。ライフラインすべて回復していない中で31名の患者さんを2階で看護されている。卓上コンロ(ボンベは多数)で対応している。支援物資は、運ばれてきているので、困ってはいない。

1. 建物の耐震が心配。安全性を診断してほしいが、数カ月待ち。大きな余震がでの患者さんスタッフの二次災害の心配。
2. 31名の患者さんの引き取りがない。スタッフも一緒に転院の条件に戸惑っている。*赤坂病院の看護部長さんの情報をお伝えする。

病院の復興は、五分五分と考えている。石巻市にどれだけ人が残り、復興するかによる。職員は、関連法人に異動で対応予定。異動に備えてナースシューズ、白衣、靴がほしい。患者さんに病院であることの安心していただくために、予防衣がすぐにもあると助かる。また、果物がほしいとのご希望ありました。

*震災後、届いた支援物資で柑橘類を口にしたら、職員の安心する顔が思い出された。今後の連絡は、当面、精神科認定看護師の内田朋子さんとやりとりする。

(固定電話使えない)部長も含め多くの職員の携帯電話は、水をかぶってしまった。

14:30 気仙沼市 三峰病院到着 会員数15名。

医療技術部主任(精神保健福祉士)：小畑達郎様と面会する。三峰病院は、山手に位置しているため津波の被害なし。建物被害もなし。入院患者さんは無事。震災後の入院数が通常の5倍になり、定床オーバーで対応している。(同市内のもう1つの病院<光ヶ丘病院>が機能していない)職員でなくなられた方は、いないが、家を失い避難所、友人、親戚宅から通勤。

光ヶ丘病院の外来患者の対応もしているが、処方内容がわからない。

<光ヶ丘カルテ水没>

また、ガソリンが手に入らなく服薬中断が多くいると予測している。ライフライン、食材、医薬品等現在問題ない。看護では、特に夜勤体制がたいへんだと感じている。

*人的支援が必要であれば、支援することを、看護部長に伝えていただくこと依頼

16:00 気仙沼市 光ヶ丘病院 会員数38名 一壊滅的な被害(要支援)

施設は、沿岸部の港湾付近にあり、2階の腰まで被害。院長・看護部長・支部副支部長：佐藤文子さんと面会する。

患者さん245名全員無事3階と屋上に避難。被災後肺炎等で亡くなれた方数名いる。岩手県立大船渡に10数名転院。職員も全員無事であるが、ご家族を亡くされた方や家屋の全壊は、多数。来られた外来患者さんは、対応しているが、1~2名/日電気は、工事用発電機2台で対応。ガスはプロパン。水道は、井戸水で補っている。食事、医薬品等は、入ってきている。

院長より、とにかくマンパワーがほしい。2階も泥をかぶっている状態。一度清掃したが……人的な派遣やボランティアについては、佐藤文子副支部長と連絡をとることとする。携帯電話+携帯アドレス把握。

20:30 宮後県支部事務局到着

3月28日(月)

8:30 宮城県支部事務局 出発

宮城県立精神医療センターで挨拶し、南浜中央病院(支部長病院)へ向かう。

26日森支部長より情報で全患者の転院が終了しており、病院機能はなし。壊滅的な被害。目の前を職員が流されていくが、何もできなかった。カルテ水没。患者さんに被害無いが全患者転院。職員は4/15まで休職扱い。

再開のめどたっていない。岩沼市内に事務所を設置し、外来と訪問で対応か？



病院へ向かうエントランス



病院正面玄関

10:30 宮城県柴田郡 仙南中央病院到着 患者数 230 名 会員数 27 名。

鈴木健院長と面会する。病棟倒壊のおそれがあり、2 単位 100 名の患者さんを体育館で看ている。ライフラインと支援物資に関しては、入ってきている。地域行政から外来診察の要望あるが、被災した職員の生活スペースにあてている。被災状況を調査することは難しかった。新築の病棟が 4 月 25 日にオープン予定(数週間おくれる可能性ある)なので、スペースが確保できるようになる。栄養課から体育館まで段差もあり、食事は職員総出で体育館に運んでいる。

ボランティアで対応しているが、県のボランティアは、9時から16時の規程有り、昼食しか対応して。食事の配膳と体育館の患者さんのケアに応援をボランティアいただけると助かる。

14:00 福島県 県立矢吹病院に到着

支部事務局長：佐藤忠 と面会し情報交換する。県の浜通り(太平洋側)

南相馬市：雲雀ヶ丘病院 原発 20 km 圏内で患者さんは、県外も含めて転院。

職員の被害状況は、施設も把握していないと考えられる。

小高赤坂病院 原発 20 km 圏内 情報がまったくない。

双葉郡：双葉厚生病院 原発 20 km 圏内 患者さんは他の厚生連に定員。他の情報なし。

双葉病院 原発 20 km 圏内 津波の心配はないが、職員の被災は、不明。

いわき市：新田目病院 被害は少ないと考えられるが、職員が被災する可能性ある。

舞子浜病院 海の近くで被災の可能性大、情報がない。

長橋病院 連絡がつかない

泉保養院 大きな被害なく患者さんを受け入れている。

いわき開成病院 情報がない。

県の中央(中通り)

県北から福島市→郡山市→須賀川市→西白河郡矢吹町となっている。

須賀川市：松南病院は、建物の一部が震災で、患者の一部を転院させている。

また、県立矢吹病院も職員も含めて、地震による家屋の全壊、半壊の職員が大勢いる。

※福島県の被害も甚大である、原発避難地域に関しては、困難があるが、情報収集と要支援の必要がある。

19:00 協会に無事到着しました。